

授業科目名	航空宇宙セミナー	大学名	帝京大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	後期
学部・学科等	航空宇宙工学科	曜日	後期
必修・選択区分	選択	時限（時間）	後期
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	未定
担当教員名	各教員（代表：真子 弘泰）		
電話番号（代表者名）	028-627-7202	e-mail アドレス	manako@ase.teikyo-u.ac.jp
オフィスアワー	未定（教務チーム 028-627-7120 に問い合わせください）		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい></p> <p>航空宇宙工学と関連した体験（模型飛行機、人力飛行機、飛行船、小型人工衛星等のもの造り）、学部3年までに学科として実施してきた施設・工場見学、航空宇宙をテーマとしたビデオ教材等および企業サイトから見た望ましい学生像等の幅広い話題を取り上げます。</p> <p>学生中心の自由な討論も時間を割り振ります。</p> <p>教員はテーマの選定、討論の進行役および適宜アドバイスをします。また、学内、学外で実施される航空宇宙に関する講演会と適宜置き換える場合もあります。</p> <p><前提とする知識・経験></p> <p>3年生までに実施される航空宇宙工学科主催の施設・工場見学会に積極的に参加して、航空宇宙に関する話題に強くなってください。</p> <p><授業の具体的な進め方></p> <p>授業はオムニバス（毎回授業担当教員と授業テーマが変わる）方式で進められます。</p> <p><授業計画></p> <p>第1週 ロケットエンジン開発失敗を学ぶ</p> <p>第2週 映像作品と宇宙開発～フィクションとリアルの間で</p> <p>第3週 無人航空機の過去、現在、未来</p> <p>第4週 再使用可能な大気圏突入システムの実現に向けて</p> <p>第5週 JAXA 次世代運航技術開発(DREAMS)プロジェクトについて</p> <p>第6週 ロケットにおける数値シミュレーション技術の活用</p> <p>第7週 航空映画の中の航空工学</p> <p>第8週 ヘリコプターの運用について</p> <p>第9週 日本の航空宇宙産業を知ろう～その実際と展望</p> <p>第10週 宇宙機の不具合事例</p> <p>第11週 エンジニアが伝える理工系学生の価値と社会からの期待</p> <p>第12週 リニア中央新幹線と応用開発例</p> <p>第13週 TASC 講演会</p> <p>第14週 人工衛星の製造からミッション終了まで</p> <p>第15週 宇宙探査ミッションを実現するには！</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法></p> <p>テキスト：無し、適宜プリントを配布します。</p> <p>使用教材：デジタルスライド、インターネット、DVD等</p> <p><成績評価法></p> <p>オムニバス方式すなわち毎回異なった教員が異なった話題を提供し、その話題の中からテーマを絞り討論します。討論内容をレポートにまとめて提出させます。成績は提出したレポート、授業中の討論、授業の一貫として実施した施設・工場見学への参加とレポート内容で評価します。フィードバックの方法はレポートの返却、解説等各教員により設定します。</p> <p><教員からのメッセージ></p> <p>授業の計画は2025年度に実施したテーマです。2026年度も準じた授業計画で実施しますが、外部機関によるものはテーマ・内容が変更されます。また教員の都合で実施順序、テーマが変更される場合があります。</p>		

